



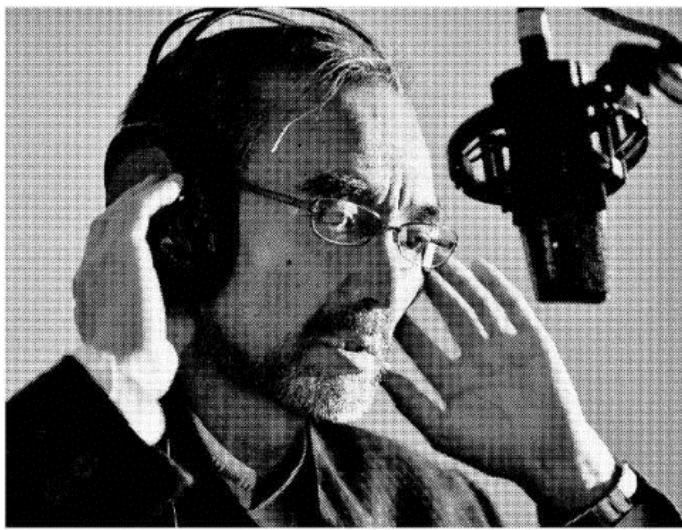
享年75 誤嚥性肺炎

私のお墓の前で泣かないでください……秋山雅史さんが歌い、2007年に大ヒットした『千の風になって』。アメリカ発祥とされるこの詩を翻訳したことで知られる、芥川賞作家でもあった新井満さんが、12月3日、北海道函館市内の病院で亡くなりました。享年75。死因は、誤嚥性肺炎との発表です。新井さんは、2週間ほど前から体調をくずし入院をしていたそうです。

「誤嚥性肺炎」については、この連載でもたびたび取り上げてきました。高齢になるほど嚥下機能が落ちるため、発症リスクが高まります。新井さんは75歳というこゝとですから、まだ少し早いようにも思えます。

しかし、65歳以上は「高齢者」という定義です。60代、70代でも

235 芥川賞作家 作詞・作曲家 新井満



長尾和宏（ながお・かずひろ）医学博士。東京医大卒業後、大阪大第二内科入局。1995年、兵庫県尼崎市で長尾クリニックを開業。外来診療から在宅医療まで「人を診る」総合診療を目指す。この連載が『平成臨終図巻』として単行本化され、好評発売中。関西国際大学客員教授。

す。では、誤嚥性肺炎になりやすい人とはどんな人でしょうか。思いつくままに挙げてみましょう。

- ・脳梗塞の後遺症や、パーキンソン病などの神経疾患によって、呑み込むことが困難な人
- ・泥酔して、そのまま寝てしまうことが多い人
- ・睡眠薬を常用している人
- ・食後、すぐに横になる人

清潔に保つこと。正しい口腔（こうこう）ケアによって、大幅に肺炎のリスクを削減できるということ。あまり知られていません。歯磨きだけでなくマウスウォッシュや舌ブラシなども併用しましょう。

日頃の口腔ケアでリスクを抑えられるのは誤嚥性肺炎だけではありません。喉や気管でウイルスが増殖するインフルエンザをはじめ、新型コロナウイルスの重症化予防にも有効であると、多くの研究者が発表をしています。

・虫歯や歯周病のある人：等々。

誤嚥性肺炎の多くは、食事中ではなく、睡眠中に発症します。寝ている間に気管や肺に唾液が流れ込み、口の中の細菌が増殖することで肺炎が起きるのです。誤嚥すること自体は人間、仕方がありませんから肺炎に至らないように気をつけることが大切です。つまり寝る前に口の中を

さて、新井満さんは、『千の風になって』について、「この歌を聴いて、死後は自然と一体化できると思うと気持ちに楽になり、死への恐怖が薄まるのではないかと語っていました。」

コロナ禍になってから、「昔のように頻繁にお墓参りに行けなくなってしまった。ご先祖様に申し訳ない」と仰る患者さんが増えて

僕はそのたびに、『千の風になって』の話をさせていたくださいます。大切な人の魂は風となって、いつも傍にいますよ、と。

千の風になって大切な人のそばへ